

# 令和7年度 自己評価結果について

学校法人 青木学園

幼保連携型認定こども園 さくらだこども園

## 1 本園の教育目標

- 1 あいさつのできる子
- 2 心身ともにたくましい子
- 3 思いやりのある子
- 4 善悪の判断ができる子
- 5 人の話がしっかり聞ける子
- 6 最後まであきらめずにがんばる子

### 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- |                |                        |
|----------------|------------------------|
| 1 健康な心と体       | 6 思考力の芽生え              |
| 2 自立心          | 7 自然との関わり・生命尊重         |
| 3 協調性          | 8 数量や図形、標識や文学などへの関心・感覚 |
| 4 道徳性・規範意識の芽生え | 9 言葉による伝え合い            |
| 5 社会生活との関わり    | 10 豊かな感性と表現            |

## 2 重点的に取り組む年齢別目標

- 0歳児 ……………生理的欲求を満たし、生活リズムをつかむ。
- 1歳児 ……………行動範囲が広がり探索活動を盛んにする。
- 2歳～満3歳児 …… 象徴機能や想像力を広げる。
- 3歳児 ……………身近な仲間や自然等々の環境と積極的に関わり、意欲を持って活動する。
- 4歳児 ……………信頼感を深め、仲間と共に感情豊かな表現をする。
- 5歳児 ……………集団生活の中で自立的・意欲的に活動し、体験を積み重ねる。

## 3 評価項目の達成及び取り組み状況

### 《評価基準》

- A：良好**（十分達成できている）      **C：不十分**（成果が十分でない、一部検討を要する）
- B：おおむね良好**（達成されている）      **D：要改善**（取り組みが不十分である）

※総合評価：A, B, C, Dの基本評価に「+」「-」を付記して状況を表している

評価項目			A	B	C	D	取組状況	総合評価
① 指導計画について	① 「認定こども園教育・保育要領」や本園の教育・保育目標を踏まえ、教育課程や保育課程を編成している	数値(人)	12	20	4	0	*園の全体的な計画を踏まえ、学年やクラスの現状を考慮しながら、編成している。*教育保育要領や園の目標、身体的・社会的・精神的発達の視点を心がけながら、編成している。*年齢や発達段階に応じたねらいを設定し、年間・月間週案に落とし込みながら教育、保育課程の編成に努めている。	B
		%	33	56	11	0		
	② 指導計画は、0歳児～5歳児(乳児・幼児)の発達段階や特性に応じた個別の目標を設定し、幼児期の終わりまでに育ってほしい12の姿を目指して作成したり、修正したりしている。	数値(人)	15	18	3	0	*個人の特性を理解し、個別目標を設定しながら目標が達成できるように計画を作成している。*子どもの発達状況に応じて指導の積み重ねを大切に作成している。*日常の教育・保育を振り返り、ねらいが達成できるよう計画の作成をしている。*12の姿に照らし合わせて作成・修正している。	B+
		%	42	50	8	0		
③ 日々の教育・保育についての反省や評価を適切に行い、課題等を明らかにし、速やかに改善を図っている。	数値(人)	20	13	3	0	*日々の保育を振り返り、反省点が改善できるよう、次への行動に生かしている。*子ども理解を深め、記録を取り、振り返りを通じて実践の改善や充実を図っている。*複数担任で情報を共有し、共通理解・共通行動を心掛けながら、課題解決、改善を図っている。	B+	
	%	56	36	8	0			
④ 月週案、日案を計画的に・意図的に作成し、様々な行事等を実施する際、一人一人の成長を促すものとなるように創意工夫している。	数値(人)	12	22	2	0	*日々の子どもの姿を把握しながら、興味・関心があるものには何かを理解し、現状に添った計画を立てている。*常に行事等の振り返りを実施し、個々の子どもの成長に繋がっているかを検証し、次に活かしている。*月案・日案を通して、日々の保育活動を振り返り、行事での一人一人の頑張りを認めている。	B	
	%	33	61	6	0			

(2) 「教育・保育」の内容について	①	教育・保育時間が十分確保され、発達段階に応じ、基礎基本を重視した取り組みをしている。	数値(人)	15	24	1	0	* 子ども達の発達に合わせた玩具の作成や様々な活動・体験ができるように時間を確保している。* 一人一人の子どもの発達過程や心身の状況に基づいて対応している。 * 子どもの主体性を重視し、「できた」という達成感や自己肯定感の向上に繋がる活動を意図的に取り込んでいる。	B+
		%	38	60	2	0			
	②	挨拶・返事・片付け・着替え・排泄等の基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、集団活動を通して約束・ルール・躰が定着できないようになってきている。	数値(人)	22	17	1	0	* 集団生活に必要な約束事や決まりを守ることの大切さを状況に応じて指導している。* クラスだより等で家庭への協力を求めながら、発達状況の合わせて指導している。 * 挨拶や「ありがとう」「ごめんなさい」など、自ら進んで伝えられるような関わりをしている。* 善悪の判断を自分で考えられるように伝えている。	A-
		%	55	43	2	0			
	③	発達段階を踏まえ、安全で健康的な運動や遊びを取り入れている。	数値(人)	16	19	5	0	* 発達段階を踏まえて、様々な遊び(ルールのあるゲーム等)を取り入れている。* クラスの中でも発達段階が異なるため、一人一人の特性に合った運動や遊びを行っている。* 年齢や発達段階を考慮して活動を実施するように意識し取り組んでいる。* 園外活動では、運動や遊びを通して、健康的な運動ができています。	B+
%		40	48	12	0				
④	異年齢児交流、教保交流活動、幼保小連携を適宜実施している。	数値(人)	13	19	8	0	* 季節の行事や園外活動等で交流する機会があったが、もっと計画的かつ有効的な交流を目指したい。* 他園との交流などが良い刺激になったと感じる。* 現状預かり保育以外での異年齢交流の場が少なく、外遊びや送迎バスでの限られた交流のみとなっている。* 幼保小交流では、進学予定の小学校見学・遊びができた。	B	
	%	33	47	20	0				
⑤	行事の内容について、価値を十分検討し、適切なものを精選するとともに、こども及び職員の負担にならないよう工夫している。	数値(人)	16	20	3	1	* 前年の反省点や改善点を踏まえ、検討や精選を行っている。* 子ども達が楽しく、意欲的に取り組めるよう練習等も工夫している。* 行事等のねらいを明確にし、子ども達が楽しく参加できるよう計画している。* 子どもの負担にならないことを心掛けて計画を立てている。* 職員間の支援体制や役割分担を明確にし負担軽減をすすめたい。	B+	
	%	40	50	7	3				
(3) 研修について	①	研修計画及び運営は適切に計画され、積極的に参加している。	数値(人)	20	14	5	1	* 今年度より一方的な研修ではなく、形態等を工夫し双方方向での学ぶ機会となり有意義な時間となっている。* 負担なく、適切に研修が実施されている。* 月1回、夏の合同研修を開催し、職員間での意見交換・情報共有をしている。* 研修会では、他の職員の考えや意見が聞ける貴重な時間となっている。	B+
		%	50	35	12	3			
	②	本園職員として、常に資質・能力の向上を図るために、積極的に教育・保育情報の収集や自己啓発に努めている。	数値(人)	12	21	6	1	* 日々の保育を振り返り、子どもの特性や個性を尊重した保育に努め、見通しを立て専門性を高めるよう取り組んだ。* 教育・保育情報を収集し、気持ちに余裕をもって自己啓発に努めたい。* キャリアアップ研修をはじめ、様々な研修機会を求めアンテナを高くして情報収集に努め、資質向上を目指している。	B
		%	30	53	14	3			
	③	研修会、講習会等に積極的に参加し、資質向上に努めている。(人権教育、幼保小連携、特別支援教育、キャリアアップ等)	数値(人)	18	12	9	1	* インターネット等を活用し、様々な研修機会を探しているが、平日開催の研修が多く、参加が難しい現状である。* キャリアアップ研修には積極的に参加した。また他園の公開保育研修に参加でき、改めて学ぶこともできた。* 消防署主催の救急救命講習(AED等)に参加できた。理論や実技を通して、今後も資質向上に努めたい。	B
%		45	30	22	3				
④	研修会、講習会等で得た情報、資料、指導内容等を園内に還元している。	数値(人)	13	19	6	2	* 報告書を基に振り返りはしているが、報告資料等を作成して、より多くの職員にフィードバックできるようにしていきたい。* 様々な教育・保育情報について、朝の職集等ににおいてプリントして配付したり、説明したりしている。* 園内研修等を利用して還元している。* あまり積極的には還元できていない。	B	
	%	33	48	14	5				
⑤	園内研修の内容を理解し、日々の職務に生かしている。	数値(人)	19	16	4	1	* レポートにまとめて、園全体に周知したり、日々の職務に生かしている。* 園内研修の内容や振り返りを皆で共有し、保育の質の向上に努めている。* 研修後に報告書にまとめ(内容や感想等)、職員全体で共有を図り、職務遂行に生かしている。* ファイリングして保存し、保育場面・保護者対応等で生かすようにしている。	B+	
	%	47	40	10	3				

(4) 安全・健康等に関する具体的指導について	① 職員は、在園するすべての園児の教育・保育を担うという本園の基本的指導方針を理解している。	数値(人)	25	11	3	1	* 会議、ツール等を活用して、全職員に周知している。* 延長保育、土曜保育、預かり保育、熱性けいれん、投薬、アレルギー等に関して適宜申し送りしている。* 職員会議、朝集等において、随時、子どもに関する情報や個々の指導方針等も共有し、共通理解、共通行動ができるように努めている。	B+
		%	63	27	7	3		
	② 災害発生時及び日常の教育・保育活動における安全確保、園外での交通事故及び不審者被害等の防止に配慮している。	数値(人)	25	13	2	0	* 毎月避難訓練を実施し、園外保育時の引率人員適正配置等を行っている。* 水害想定避難訓練を、近隣の高台施設(老健桜田)と協力関係を築いて実施している。* 毎朝の清掃時に遊具等の点検、不具合等の有無を確認している。* 園内での安全な過ごし方や園外保育での交通ルールの確認等をしなが、安全意識を高めている。	A-
		%	63	32	5	0		
	③ 不審者が園内に侵入した際の「合言葉」及び「避難方法」等について十分に理解している。	数値(人)	21	16	2	1	* 不審者対応についてのマニュアルに従い、毎年実施している訓練を通して、理解を深めている。* 毎年、職員全員で合言葉を確認と役割分担をしている。* 園全体(職員も子ども達)で不審者侵入時の合言葉が周知されている。* 毎年の訓練を通して、初期対応や避難方法、バリエーション等の作り方などを周知徹底している。	B+
		%	52	40	5	3		
	④ 感染症の種別による出席停止期間及び登園の目安時期等を理解し、感染予防に努めている。	数値(人)	25	11	3	1	* 感染症流行に際し、対策を共通行動で徹底している。(手洗い・うがい・消毒・換気)* 感染症一覧を近くに設置し、病名・症状・出席停止期間等について熟知できるようにしている。* 流行時は啓発資料の配付し、保護者への情報提供にも取り組んでいる。* 通年で、こまめに換気、手洗い、うがい、消毒の徹底を図っている。	B+
		%	63	27	7	3		
⑤ 登園時・活動中・活動後・昼食時・午睡時等において、常に園児の健康観察に努めている。	数値(人)	32	8	0	0	* 顔色や様子を観察し、常に気を配り、変化がみられる際は、保護者へ速やかに連絡している。* 登園時の視診、触診を必ず実施している。* アプリの検温情報や受け入れ時の表情や子どもの様子などを注意深く視る。* 保護者とのコミュニケーションを大切にして早期発見、早期対応を心掛けている。	A+	
	%	80	20	0	0			
⑥ 疾患・持病のある園児については、保護者との面談等を実施するとともに、かかりつけ医からの指示に基づいて対応している。	数値(人)	28	11	0	1	* 保護者と情報を共有し、アレルギー等を持っている園児に対しては、その都度、保護者に確認をとっている。* 熱性痙攣等を発症しやすい園児の保護者とは定期的に連絡をとっている。* 疾患のある園児については、担当医の指示書や保護者からの情報をもとに、指示に従った対応を行っている。	A	
	%	70	27	0	3			
⑦ 投薬(与薬)については、保護者から「投薬依頼書」「薬品」等をその都度提出してもらい、かかりつけ医の指示及び留意事項を踏まえ、複数で投薬を確認している。	数値(人)	33	5	1	1	* 担当医の指示や留意事項を確認し、投薬の際には、ダブルチェック体制で行っている。* 薬剤情報提供書をもとに、薬品名、飲み方等を複数(管理職を含め)で確認している。* 投薬等が必要になって場合は、職員間で情報を共有し、担任だけの対応にならないように注意している。	A+	
	%	82	12	3	3			
⑧ 体調が悪くなり、保護者の迎えが必要になった場合は、速やかに園児の看護及び保護者への連絡をするとともに、状況を説明している。	数値(人)	31	8	0	1	* 「いつ、どこで、どのように」等、状況をメモして保護者へ伝えるように心掛けている。* 第1・第2…職場等の順で連絡し、発熱・咳・鼻水がある場合は、マスクをして待機させている。* 緊急連絡票を活用し、遠足及び園外活動においても速やかに連絡できるようにしている。	A	
	%	77	20	0	3			
(5) 不適切保育の根絶・根絶	① 園児に対し、怒鳴る、激しく叱りつける、無視する、呼び捨てにする、身体を強く押しついたり引っ張ったりする、蹴る、閉じ込める等の行為は、教育・保育では許されないと理解し、絶対に行っていない。	数値(人)	28	10	0	2	* 普段から余裕をもって保育するように心掛けている。* 子どもが委縮するような姿にならないよう丁寧な保育に努め子ども達と接している。* 園児一人一人の人権を大切に、適切な保育活動を行っている。* 威圧感のある声掛けや態度で、子どもを委縮させないように心掛けている。* 園児一人ひとりの気持ちに寄り添い、感情的な言動にならないように丁寧に接することを心掛けている。	B+
		%	70	25	0	5		
	② 園児のプライバシーに配慮するとともに、性的な写真を撮ったり、SNS等で広めたりしていない。	数値(人)	37	3	0	0	* 園児のプライバシーに十分に配慮し、不適切な写真撮影や情報発信を行わないよう留意している。* 子どもの人権や人格を一人一人尊重し個人情報に取扱いについて十分に配慮している。* おむつ替えは専用の衝立等があると、もっと子ども達に配慮できるのかなと感じている。* プールや体操等の着替えは、衝立を使用し配慮している。	A+
		%	93	7	0	0		

業務規律の確立について	③	同僚職員の不適切と思われる行為等を見たり聞いたりした場合は、黙認せず、その場で指摘したり、上司に報告・連絡・相談したりしている。	数値(人)	24	14	2	0	* 指摘する前に相談している。* 絶対にあってはいけない行為であり、早期の対応(相談・報告等)を努める。* もし今後そのような行為を見聞きした場合には、黙認せず、報告・連絡・相談、そして共有を図っていく。* 話しやすい環境をつくっていただいているので、不安な場面があった時にはすぐに相談するように心掛けている。	B <sup>+</sup>
		%	60	35	5	0			
	④	法令及び社会的な規範に則り、生活するとともに、職務専念義務をはじめ服務規律を守り、同僚職員と常に連携を取りながら落ち着いて教育・保育に取り組んでいる。	数値(人)	24	16	0	0	* 適切に対応している。* 教育・保育業界で従事する身として、規律を守り、チームとして保育に取り組んでいる。* 職員同士で声を掛け合いながら、日々の教育・保育に取り組んでいる。* 状況に応じて情報共有を行い、安全かつ安定した保育を心掛けている。* 些細な事でも話し合い、連携を取りながら取り組むことができている。	A
%		60	40	0	0				
⑤	守秘義務を常に心に留め、職務上知り得た内容及び個人情報を許可なく開示しない。	数値(人)	34	6	0	0	* 守秘義務を常に意識しながら活動している。* 職務上で知り得た情報は、プライベートな場で話さないように注意している。* 情報の取扱いには、常に責任を持ち、適切な範囲でのみ共有するように心掛けている。	A <sup>+</sup>	
		%	85	15	0	0			
(6) 特別支援教育について	①	特別な配慮を要する園児には、定期的に保護者面談を実施するとともに、園児の特性をよく理解した上で、園生活や諸活動を支援している。	数値(人)	18	14	2	0	* 園児の特性を理解し、現状把握及び支援方法の手立てを考え、保護者との連携を図っている。* 保護者面談及び連絡を密に行い、園児にあった支援をしている。* 入園前及び未就園児教室の様子から、園長面談を実施し、専門機関での相談を推奨している。* 保護者や各関係機関と情報共有しながら、保育・教育に取り組んでいる。	B <sup>+</sup>
			%	53	41	6	0		
	②	個別の支援計画を作成し、計画的・中長期的な目標を立てながら支援している。	数値(人)	18	13	3	0	* 該当園児については実態把握を明確に行い、園生活に基づく具体的目標を立て、個別の支援計画を作成している。* 個別の支援計画を作成した後、具体的な支援方法を考え、適切な支援ができるように心掛けている。* 特別に配慮を要する園児は、個別の支援計画を作成し、目標に沿って支援している。	B <sup>+</sup>
			%	53	38	9	0		
③	療育施設、その他の関係機関と連携したり、相互訪問をしたりしながら、指導・支援をしている。	数値(人)	15	11	5	3	* 療育施設への訪問や担当者との連携、情報共有を深めるとともに、より良い支援ができるよう取り組んでいる。* 療育施設を見学訪問したり、園での様子など月1回程度の訪問を実施している。* 長期休みの時期に、施設に訪問させていただき、互いの環境での様子などを共有し支援している。	B	
		%	44	32	15	9			
④	「ノーマライゼーション」「インクルーシブ保育」の趣旨を理解するとともに、特別支援教育に関する新たな知識・技能を習得するように努め、日々の教育・保育に生かしている。	数値(人)	12	16	6	0	* 特別支援教育に関する資料提供をはじめ、社会及び教育界・保育界における考え方が変化していることについて学ぶ意欲を高めた。* 今後、増えていくであろう特別に支援が必要な園児のためにも、研修等を通して特別支援教育への知識や技能を高める必要を感じている。* 知識や技能を、確実な実践までは生かしていない。	B	
		%	35	47	18	0			
(7) 食事・食育について	①	落ち着いて食事・おやつを楽しめるように配慮し、誤嚥しないように見守ったり、体調に応じて食事の量を調整したりしている。	数値(人)	29	11	0	0	* 食事前に落ち着かせる時間をしっかり取り、声の大きさを考えるよう促している。* 食育について絵本などを活用し興味関心を高める工夫をしている。* 落ち着いて食事が楽しめるような雰囲気作りにも努め、マナーや姿勢について見守っている。* 多量に口に運ばないように、少しずつゆっくり食べるよう声掛けしている。	A
			%	73	27	0	0		
	②	食事のマナーは、発達段階や個別に配慮し、食事をしながら話しかけるなど、自然に少しずつ身に付くよう工夫している。	数値(人)	23	17	0	0	* スプーン・フォークの持ち方、身体の向き等が自然に身に付くよう、どのようにしたら良いか一緒に考える場をつくっている。* 食品ロスの観点から、特に、残飯を減らすよう声掛けに工夫している。* スプーンの持ち方を視覚ポスター等を用いて指導したり、正しい姿勢で食べるように促している。* 絵本を使ってマナーについて学んでいる。	A <sup>-</sup>
%			58	42	0	0			
③	友達と楽しく食べたり、メニューや食材について理解したりできるように食育計画を作成し、指導を工夫している。	数値(人)	10	23	6	1	* 給食メニュー発表や三色食品群一覧表を用いて、食材に興味を持たせ、苦手な食物も食べられるように指導している。* 野菜の収穫体験を生かし、食材への興味関心を高める工夫をしている。* メニュー表を基に、それぞれの食べ物を口にすることで、自分の身体にどんな効果があるのか話す場をつくっている。	B	

④	食物アレルギーのある園児については、保護者との面談等を実施するとともに、かかりつけ医の指示を踏まえ、除去食を用意したり事前に取り除いたりするなど慎重に対応している。	数値(人)	30	10	0	0	* 給食除去食提供では、個別の配膳を実施し、対象児を間違えないようにしている(保育部) * 成分表の確認、保護者、業者との連携を密に図っている。* 保護者と綿密に連絡をとり、現状の把握、程度などの聞き取りを定期的に行っている。* 事前に献立表や成分表等を配布して、除去の確認を必ず取っている。* 担任からの情報共有を基に預かり保育における除去対応を徹底している。	A
		%	75	25	0	0		
⑤	農作物の収穫体験を通して、野菜の生長や栄養等に興味関心が持てるようにしている。	数値(人)	23	14	3	0	* 収穫体験前に、絵本等を用いて生長する過程等に興味関心が持てるようにしたり、家庭でどんな料理にして食べたのか話したりしている。* 野菜の収穫体験を生かし、作る人の苦労や料理の工夫について考えさせている。	A-
		%	58	35	7	0		
①	保護者との情報交換や相談等に関する内容を、適宜ノートに記録したり、園生活での指導・支援に活用したりしている。	数値(人)	21	16	3	0	* 面談事項、日常の会話、アプリでの連絡等を、適宜記録して見返すことができるようにしている。* 個別ノートを作成し、連絡事項、留意事項等を必ず記録として残し、指導に生かせるようにしている。* 園児一人一人の特性を把握し、発育状況や保育上のねらいを設定する資料としていきたい。	B+
		%	53	40	7	0		
②	保護者からの相談内容等は、園全体で受け止め、上司や同僚に必ず報告・連絡・相談をしている。	数値(人)	30	10	0	0	* 即答できない相談内容等は、上司に必ず報告・連絡・相談してから、保護者に伝えるようにしている。* 返答に困るような内容等については、上司や他の職員と相談をして上で、保護者に速やかに応答するようにしている。* 園全体で受け止め、共有を図り連携しながら丁寧な対応を心掛けている。	A
		%	75	25	0	0		
③	「子育て支援センター」における地域の家庭を対象とする相談や遊び場の提供等について、園の取り組みを理解している。	数値(人)	15	19	5	1	* 支援センターの情報は、広報誌「カシオペア」で確認しているが、さらに具体的な運営状況について理解を深めたい。* 支援センター、未就園児保育、ボランティア活動等、保護者同士で関われる場を設けている。* 保護者や他児、親同士のふれあいの場を提供し、互いの交流や情報共有の場となっている。	B
		%	38	48	12	2		
④	園児一人一人のわずかな変化を見逃さないよう観察し、虐待の疑いがある場合は複数の職員と迅速かつ慎重に対応している。	数値(人)	26	12	2	0	* 要保護児童対策地域協議会との連携が必要な場合は、園長が窓口となり情報提供できるようにしている。* 家庭での様子や子どもの変化を常に把握し、虐待が疑われる事案については、迅速かつ組織的に対応している。* 身体的虐待だけではなく、子ども達の会話からも、虐待と疑われる場面がないか配慮して関わっている。	B+
		%	65	30	5	0		
⑤	虐待の疑いがある情報を得たときは、児童相談所(久喜市保育幼稚園課)等に報告、通告を行う体制を理解している。	数値(人)	26	10	4	0	* 園内研修等を通じて、適宜研修を実施している。* 主幹や管理職に報告、連絡、相談等を行いながら、早期発見・早期対応の体制を強化していきたい。* 気になる事案は、記録(写真・聞き取り等)を時系列で残し、関係機関に提供できるようにしている。* 職員全体で通告を行う園の体制を学んでいる。	A-
		%	65	25	10	0		

(8) 子育て支援について

#### 4 今後の取り組むべき課題

- ◆ 指導計画を立案は、園児の発達段階(特別な配慮を要する園児を含む)を踏まえ、系統的に指導内容を編成する。
- ◆ 園児から目を離さず、組織的体制で見守り支援ができるような体制を一層強化する。
- ◆ 園児個々の危機管理能力が身に付くよう、様々な避難訓練で実施計画等を工夫する。避難訓練での職員一人一人が役割・行動を熟知し、常に最適な避難誘導ができるようにする。
- ◆ 常に「計画・実施・評価・改善」(PDCAサイクル)に基づき行事等の精選を実施する。園児の負担に配慮するとともに、ねらいの明確化、実施内容や方法、時期等を常に検討を重ねていく。
- ◆ 職員の資質向上を図るため、保幼小の連携を深めながら、園外研修会等への参加もできる体制を確立する。園内研修を一層充実させ、事例研究や研修の形態等も工夫を持たせ、質の高い教育・保育ができるよう個々の専門性を高める。また、社会人としての人間性も豊かにする。
- ◆ 食育計画を確立し、園児の栄養、食材、献立等への関心を高め、食事のマナーを定着させる。
- ◆ 社会人としてより一層資質の向上を図り、一般常識・教養・接遇等に関心をもち、保護者、地域からの信頼を高める。

## 5 財政状況

監査法人の詳細な監査により、適正に運営されていると認められている。

- ◆園内研修は、保育部・教育部で長期休業中など定期的(年2回程度)に、テーマ・課題研修を実施。
- ◆自己啓発は、職員各自が職責遂行に伴う資質向上としてオンライン研修、自宅研修等において実施。
- ◆園外研修会として、民間保育所等連絡会主催研修会、市教委主催「幼保小連携に関する研修会」
- ◆園長講話(1.不適切保育、2.魅力ある園づくり、3.保護者対応)
- ◆その他(キャリアアップ研修)